

主題名 ネット社会における人権

教材名 言葉の力、私の思いーあなたはどんなメッセージを送りますか？ー

人権学習の視点 個別的な視点「さまざまな人権問題」

主題・教材について 携帯電話やパソコンなど、情報機器の発展とともに、増加する人権侵害事象を正しく捉えられる人権感覚を養い、直接人と人が会って話すことの重要性を再確認させる。
さらに、携帯メールや電子メールが引き起こした「いじめ・トラブル」の事例がある一方で、メールによって救われたり、心の支えを持てたりする事実を知り、自分ならどのようなメッセージを発信したいかを考えさせ、人と人とのよりよい人間関係を築くための手段であることを認識させたい。

ねらい 情報機器の利便性の裏にある危険性を理解した上で、より良い人間関係を築くために利用する態度を培う。

本時の展開

過程	指導内容	形態	主な学習活動	指導上の留意点	教材・教具
導入	情報機器の利便性と犯罪事象についての体験や聞いた話をまとめよう。				
	○「良かった体験」と「良くなかった体験」を発表させ、情報機器活用の際に、利便性と危険性が共存することを理解させる。	個別 一斉	○ワークシートに記入し、発表する。	○携帯電話の所持率等をあらかじめ把握しておく。 ○一般的な利便性や犯罪等でなく、自分の体験や実際に聞いた話を、書ける項目について記入させる。	ワークシート 項目①
展	人を傷付け、自殺や事件につながった事例。…防げなかったのだろうか。				
	○情報通信機器には利便性だけでなく危険性も伴うことを理解させる。	一斉	○きっかけは、何だったのかを考え、事件へつながる際の分岐点について話し合う。 ※「事件につながる、つながらない」の分かれ目はどこなのかを考える。	○新聞記事等の事例を紹介し、どこに問題があったのか、事件に発展したきっかけは何だったのかを考えさせ、未然に防ぐことのできた事件であることを、生徒の意見を聞きながら確認する。	手引き CDの中の新聞記事
開	「言葉の力、私の思い」を読んで考えよう。				
	○言葉の力の大きさを読み取らせる。	個別	○いじめを受けた作者を救ったものは、温かい言葉だったことを理解する。	○「言葉は人の心を傷付ける凶器にもなれば、温かく人の心を癒すこともできる」と書いている作者の思いを読み取らせる。	資料集 「言葉の力、私の思い」
開	あなたは、どんなメッセージを送りますか？				
	○メールのメッセージには、人を救ったり幸せにしたりする力があることに気付かせ、自分が送るメッセージを考えさせる。	グループ	○新聞記事にある「誹謗・中傷」のメールと「iのあるメール」を読み比べ、自分ならどんなメッセージを送りたいかを考える。	○「iのあるメール」のそれぞれがどんな状況で送られてきたのかを紹介し、メッセージに込められた思いを感じ取らせる。 ○自分ならどんなメッセージを送るかを考えて書かせる（相手の顔を思い浮かべて考えるのもよい。）。	資料集 手引き「iのあるメール」 ワークシート 項目②
まとめ	○友達の考えたメッセージを聞き、相手を思いやることの大切さや言葉の力を感じ取らせる。	一斉	○メッセージを交流し、今後の利用方法について思いや考えをまとめる。	○相手を思いやる言葉は、人の心を温かくする力をもつことを感じ取らせる。	

評価

情報機器の利便性の裏にある危険性を理解し、より良い人間関係を築くために利用しようとする態度を培うことができたか。